

1. 質問：口から摂取するもの、皮膚に塗るもの、また注射から身体の中に取り入れるものについての最終的な責任は、アスリート自身にある。

答え：○

解説：アスリートは摂取する薬などで分からないことがあれば、積極的に確認を行う必要があります。そうすることによって自分自身のアスリートとしてのキャリアを守ることに繋がります。何か疑問があれば、どんなことでも確認を！成分が不明瞭であったり、禁止物質かどうか分からない場合には、口にしないようにしましょう。

2. 質問：ドーピング検査の対象はオリンピック、パラリンピック、世界選手権に出場するアスリートのみである。

答え：×

解説：多くの国、そして国際競技連盟がアンチ・ドーピング・プログラムを実施しています。ナショナルチームのアスリートであれば、競技会時または、競技会以外の自宅やトレーニング場所などでも検査対象となる可能性があります。

3. 質問：WADAは何の略でしょうか？

① World Anti-Doping Administration それとも ② World Anti-Doping Agency

答え：② World Anti-Doping Agency

解説：WADA(世界アンチ・ドーピング機構)のミッションは、世界中の全てのスポーツにおけるドーピングの撲滅を国際レベルで推進し、調整、モニタリングをすることです。

4. 質問：アスリートが競技会検査の対象に選ばれたという通告を受けた場合、アスリートは同伴者1名をドーピング・コントロール・ステーションに帯同できる権利が認められている。

答え：○

解説：アスリートは自分が選んだ成人の同伴者1名をドーピング・コントロール・ステーションに帯同することが認められています。通常はチームドクターやトレーナー、コーチが同伴者となります。同伴者は尿検体提供時以外のすべての工程を確認することができます。またアスリートは、必要に応じて通訳の同伴も求めることができます。

5. 質問：自分の国で使用が認められている薬品は、同じメーカーのものであれば海外で購入しても問題なく使用することができる。

答え：×

解説：薬によっては、別の国で購入した場合含まれる成分がわずかで異なる場合があり、場合によっては、禁止物質が含まれていることもあります。海外で購入した薬品を服用する際には、細心の注意を払い成分を確認し、必ず医師(チームドクター等)に相談してください。

6. 質問：アスリートが1年間に受けるドーピング検査の回数の上限は決まっているか？

答え：上限なし

解説：競技会検査、競技会外検査、いずれの検査であっても、アスリート一人が1年間に受ける検査の回数に制限はありません。

7. 質問：スポーツにおける禁止物質や禁止方法を検出するための尿検体の分析は、設備の整った分析機関であればどこでも行うことができる。

答え：×

解説：スポーツにおける禁止物質や禁止方法を検出するための尿検体の分析は、WADA(世界アンチ・ドーピング機構)の厳格な世界標準を満たし、認定を受けた分析機関においてのみ行うことができます。

8. 質問：薬局で購入したものであれば、どのようなサプリメントでもスポーツでの使用が認められている。

答え：×

解説：どのようなサプリメントや薬であれ、それらを摂取することの責任は、全てアスリート自身にあります。多くの国ではサプリメントには規制がかけられていないため、製品に何が含まれているかを事前に確認することが困難です。また、過大な効果を宣伝している製品中にはありますが、信じられないような効果をもたらす製品に限って、禁止物質が含まれているケースがよくあります。

よって、サプリメントを摂取する代わりに、自分自身の栄養管理プログラムをきっちりと考えることが一番です。

9. 質問：障害のあるアスリートは、必要な薬であればどんな薬でも使用して良い？

答え：×

解説：障害のあるアスリートも同様に、世界ドーピング防止規程における禁止表を守らなければなりません。しかし、障害により、特定の薬が治療上必要である場合には、IPC(国際パラリンピック委員会)医事委員会か自国のアンチ・ドーピング機関に TUE(治療目的使用の適用措置)を申請することができ、使用の許可を得る必要があります。

TUE は審査を経て付与されることになっています。

10. 質問：検査対象となったアスリートが、ドーピング検査で陽性となることを避けるため、他人の尿と自分の尿をすり替えることが簡単にできる。

答え：×

解説：検査に関する国際基準の下では、アスリートはドーピング検査の通告を受けてから検査を終えるまで常にドーピング・コントロール・オフィサー(DCO)の監視下に置かれることとなります。また、尿検体採取についても DCO 監視下のもと厳格に実施されるため、尿検体を改ざんすることはできません。

11. 質問：病気にかかっている時は、早く治すためにどのような薬でもとることが許される。

答え：×

解説：風邪を引いたり、インフルエンザにかかったり、花粉症になった場合でも、禁止物質が含まれていないことが確認できない限り、どのような薬や物質も摂るべきではありません。これは市販の薬品であっても、医師が処方する薬でも同様です。陽性結果は陽性結果であり、どの様な事情も考慮されません。

12. 質問：陽性結果の出たアスリートに対し、禁止物質の摂取を助けたり、勧めたりしたコーチや医師は、アスリートと同様に制裁の対象となる。

答え：○

解説：競技者支援要員(コーチ、医師、トレーナーなど)がアスリートに禁止物質や禁止方法の使用を援助したり、勧めた場合、重大な違反行為とみなされ、世界ドーピング防止規程に基づき制裁が課されます。

13. 質問：ドーピング・コントロール・オフィサー(DCO)は、検査数時間前に検査を行うことをアスリートに通告しなければならない。

答え：×

解説：ドーピング検査は、可能な限り事前の通告なしに行われます。これは、DCO がいつでも、どこでも検査を行うことができるということを意味しています。そのため DCO には、アスリートに不必要な迷惑をかけないよう、臨機応変に対応することが求められています。

14. 質問：一旦検体が採取、密封され、必要な書類の記入が全て完了した後に、密封した検体を開けようとしたり、何かを混ぜようとしたり、検体に手を加えようとした場合、その形跡は明確に判別することができる。

答え：○

All rights reserved 2007 WADA: Updated Sept. 2010

解説：検体は完全に密封され、不正に手を加えられることはありません。また、分析機関においても、検体の一貫性が疑われるものについては、分析を行う前に報告をすることになっています。

15. 質問：アスリートは忙しいという理由からドーピング検査を拒否することができる。

答え：×

解説：ドーピング検査を拒否することは陽性結果と同様の制裁が課されます。検査の通知を受け、仮にアスリートがそれを拒否した場合、アスリートは拒否の理由を公式記録書、もしくは補足報告書に記入し、直ちに所属競技団体に報告しなければなりません。

16. 質問：アスリートが望めば、コーチはドーピング検査室に同行することができる。

答え：○

解説：全てのアスリートには、同伴者をドーピング検査室に帯同する権利があります。

17. 質問：検査の際、たとえサンプルキットが汚れていたり、手が増えられていたりする様に見えても、最初に手に取ったサンプルキットを使わなければならない、他のサンプルキットと取り替えてもらうことはできない。

答え：×

解説：アスリートにはサンプルキットの選択権が与えられています。もし最初に選んだサンプルキットが気に入らなければ、別のものに変えたいということを要請することができます。

18. 質問：アスリートが病院にかかる際には、自分自身がドーピング検査の対象となるアスリートであり、禁止物質を使つてはいけないということを医師に伝えなければならない。

答え：○

解説：アスリートは診断を行う医師に対し、禁止表に挙げられている物質を含まない薬の処方依頼する必要があります。もし、治療目的で禁止物質を含む薬の使用が必要である場合、薬を使用する前に国際競技連盟か、国内アンチ・ドーピング機関に対し、TUE(治療目的使用の適用措置)の申請を行う必要があります。なおTUEの申請は、緊急の場合には事後であっても申請が可能です。そのことについても必要であれば、医師に伝えておく必要があります。

19. 質問：もし必要な尿検体の量を提出することができなかった場合、追加として血液検査をすることが求められる。

答え：×

解説：尿検体が必要な量に満たない場合、この尿は部分検体として一時的に封印、記録されます。その後、尿意をもよおすまで待った後、必要量に達するまで尿検体を提出し続けることとなります。

20. 質問：時には禁止物質を使つても勝たなければならない。

答え：×

解説：勝つために禁止物質を使つたとしても、ベストを尽くし勝利を収めたとは言えません。ドーピングによる不正な行為は、全てのアスリートにおいて大切な真のスポーツの精神を損なうこととなります。

21. 質問：何が含まれているか分からなくても、信頼している人からのものであれば、薬をもらって飲んで良い。

答え：×

解説：アスリートは自分自身の体内に入るものについて、常に何が含まれているか把握していなければなりません。何が含まれているかを知らずに薬を摂ることは、ドーピング検査で陽性となるリスクがあり、健康も損なわれる可能性があるということを理解しておく必要があります。

22. 質問：ドーピング・コントロール・オフィサー(DCO)が競技会外検査の為にあなたの自宅にやって来た場合、あなたは一人で部屋を出たり、買い物に行くために外出したりすることができる。
- 答え：×
- 解説：検体における完全性、同一性が守られるためにも、アスリートは DCO の視界に常に入っていることが求められます。もし部屋を出なければならぬ場合は、DCO に事情を説明し、同行をしてもらうことになります。
23. 質問：1 週間前に競技会外検査を受けたら、次の検査までは数週間はある。
- 答え：×
- 解説：次の検査までに数週間程空く場合もあれば、数日、数時間という場合もあります。短期間に 2 回以上検査が実施されることによって、不正行為を続けることが「不可能だ」と思わせ、ドーピング行為に対する抑止効果が期待できます。
24. 質問：チームドクターが薬を処方し、ドーピング検査で陽性となった場合、責任は全て担当のチームドクターにあり、アスリート自身の責任が問われることはない。
- 答え：×
- 解説：チームドクターが間違っただけのアドバイスや不適切な治療を行った場合、制裁の対象となる可能性があります。しかし、アスリート自身の身体に入るものに対する最終的な責任は、アスリート自身にあります。
25. 質問：私自身（アスリート）がドーピング検査の対象となりうる？
- 答え：○
- 解説：ドーピング検査には、国内トップレベル、または国際レベルのアスリートだけでなく、ドーピング検査が実施される大会に出場したアスリートは検査の対象者として選ばれる可能性があります。検査を受けることは、ドーピングをしていないということを証明する良い機会でもあります。
26. 質問：もしドーピング・コントロール・オフィサー(DCO)が身分証明証を持っていない場合、検査を拒否できる。
- 答え：○
- 解説：DCO は、ドーピング検査を行うための権限を正式に有していること、そして認可された検査機関に所属していることを証明するために、認定証明書(ID)を提示することが義務づけられています。もしこれらの提示が無い場合は、公式記録書の該当欄、もしくは補足報告書にその旨を記載、署名し、アスリート用の控えを保管した上で、直ちに所属競技団体に連絡しましょう。
27. 質問：分析機関では検体が誰のものか知ることができる。
- 答え：×
- 解説：検体とともに分析機関に送られる書類には、アスリートの個人情報は一切含まれません。分析機関に伝えられる情報は、競技種目、大会名、性別、競技団体、検査日時、検体番号のみです。
28. 質問：ドーピング検査を受けた際、ドーピング・コントロール・オフィサー(DCO)がすべての書類を保管し、私自身（アスリート）は控えを後日受け取ることになる。
- 答え：×
- 解説：検査を受け、公式記録書に必要事項を全て記入した後、DCO が公式記録書のコピーをあなたに渡すことになっています。公式記録書のコピーは自分自身で保管しましょう。
29. 質問：検査対象者登録リストに登録されたアスリート (RTPA) は、休暇中であれば居場所情報を提出する必要はない。

答え: ×

解説: アスリートはドーピング検査機関がいつでも競技会外検査を実施できるようにしておく必要があるため、休暇中であっても居場所情報を提出する必要があります。

30. 質問: 蛋白同化ステロイド(Anabolic Steroids)はスポーツにおいて常に禁止されています。蛋白同化ステロイドの使用は、以下のどのような副作用をもたらすでしょうか?

- a. 男性の女性化(乳房が大きくなる等)、女性の男性化(声が低くなる等)
- b. 肝臓疾患、心臓疾患
- c. 暴力的になり、興奮しやすくなる
- d. 上記すべて

答え: d. 上記すべて

解説: 蛋白同化ステロイドは筋肉を増強するという作用がありますが、命に関わる副作用があることも確認されています。また、蛋白同化ステロイドの使用は、健康を害するだけでなく、あなた自身がアスリートとしての本来の能力を発揮する機会を失くし、自分自身もだますことにもなります。

31. 質問: アスリートが治療目的のために禁止物質を使用することが可能となるのが、TUE (治療目的使用の適用措置) のプログラムです。

TUE は、禁止物質が健康に支障をきたさないこと、他に治療薬もしくは治療方法がないこと、競技能力を向上させないことを条件に付与されます。

では、“TUE”とはなにを意味しますか?

- A. Therapeutic Use Exemption
- B. Therapeutic Use Equipment

答え: A. Therapeutic Use Exemption

解説: 国際レベルのアスリートは、国際競技連盟に、国内レベルのアスリートは国内のアンチ・ドーピング機関に TUE を申請してください。TUE は、使用される物質とそれに定められた用量、及び使用期間に対して付与されます。

32. 質問: ヒト成長ホルモン(Human Growth Hormone: hGH) は骨の伸長を助け、筋肉や身体の器官を成長させることで知られています。ヒト成長ホルモンの使用はスポーツにおいて常に禁止されています。

一般的に知られている hGH の副作用とは:

- a. 心臓血管疾患
- b. 筋肉痛・関節痛、臓器肥大
- c. 糖尿病
- d. 上記すべて

答え: d. 上記すべて

解説: ヒト成長ホルモン(Human Growth Hormone: hGH)は、現在ドーピング検査で検出することが可能となっています。

33. 質問: 禁止表には、どの物質、どの方法が競技会検査と競技会外検査でそれぞれ禁止されているかが明記されている。

答え: ○

解説: 禁止表は、国際的な専門家からなる禁止表委員会で協議され、毎年1月1日に最新版が発効します。

アスリートは最新の禁止表の情報を知っておく必要があります。最新の禁止表はWADAのホームページで手に入れることができます。www.wada-ama.org

34. 質問: アスリートは誤って禁止物質を使用してしまった場合でも、すぐにドーピング・コントロール・オフィサー(DCO)にそのことを伝え、公式記録書にその旨を記載してもらえば、何の問題もない。

答え: ×

解説: 世界ドーピング防止規程は、自身が摂取したものに対する自己責任を厳格に定めているため、仮に禁止物質があなた自身の体内から発見された場合には、あなた自身がアスリートとして責任を取るようになります。

35. 質問: 隠蔽剤(インペイザイ)とは何ですか?

- a. アスリートが禁止物質を使用するのを手伝う人
- b. 禁止物質の使用を隠すために使われる物質、もしくは方法
- c. アスリートの代理人
- d. ドーピング検査のボトルの蓋をくっつけるための粘着剤

答え: b

解説: 隠蔽剤 (インペイザイ、masking agent) とは、禁止物質の使用を隠すために使用される物質、もしくは方法のことを言います。隠蔽剤は競技会検査、競技会外検査の両方で禁止されています。

36. 質問: 検査対象者登録リストに登録されたアスリート (RTPA)は、たとえケガのために競技に参加していなくても、どのアンチ・ドーピング機関がいつでもどこでも競技会外検査を行うことができるよう、居場所情報を必ず提出しなければならない。

答え: ○

解説: アスリートであれば、たとえケガや病気で競技に参加していなくても、アンチ・ドーピング機関がいつでも、どこでも居場所を確認できるように居場所情報を提出しなければなりません。

37. 質問: 現在、ヒト成長ホルモン(Human Growth Hormone: hGH)を検出する検査が存在する。

答え: ○

解説: 2004 年以来ヒト成長ホルモン検出のための血液検査が行われており、競技会外および競技会検査の両方でより多くの検査が行なわれています。

38. 質問: もしドーピング検査で血液が採取されたら、失神したり、気分が悪くなるかもしれない。

答え: ×

解説: 血液検査では、採取される血液量はほんの少量(リップスティックの量程度)であり、競技に影響がない量とされています。また、看護師や採血医など医療の専門家が待機しているので、気分が悪くなった場合には、相談することができます。

39. 質問: ドーピング検査で採尿を行う際、アスリートの性別に関係なくドーピング・コントロール・オフィサー(DCO)であれば誰でも採尿を監視することができる。

答え: ×

解説: アスリートが採尿するときの監視は、必ずアスリートと同性の DCO が実施します。

40. 質問: アスリートがドーピング検査手続き中に疑問を持った場合、その疑問をいつ確認すれば良いのでしょうか?

- a. ドーピング検査後いつでも
- b. ドーピング検査中
- c. 世界アンチ・ドーピング機構に手紙を送る

答え: b. ドーピング検査中

解説: アスリートは、ドーピング検査中に気になることがあれば、ドーピング・コントロール・オフィサー(DCO)に対しいつでも質問することができます。アスリートはドーピング検査について知りたいことを知る権利があり、ドーピング検査の手順について気になる点があればそれを公式記録書の該当欄、もしくは補足報告書に記録することができます。

41. 質問: 試合に参加していなくても、競技会のドーピング検査の対象になる。

答え: ○

解説: 実際に試合に参加したか否かに関わらず、大会に登録されていれば、ドーピング検査の対象になる可能性があります。

42. 質問: 世界ドーピング防止規程の目的は何ですか?

- a. ドーピングのないスポーツに参加するという、アスリートの基本的な権利を守るため
- b. アスリートの健康、公平、平等を推進するため
- c. 国際レベルで調和が図られ、効率的なアンチ・ドーピング・プログラムを確実にを行うため
- d. 上記のすべて

答え: d. 上記のすべて

解説: 世界ドーピング防止規程は、スポーツにおけるアンチ・ドーピング・プログラムの基礎となる普遍的な文書です。

43. 質問: ドーピング検査でA検体が陽性となった場合、アスリートには以下の権利がある:

- a. B検体の分析を求められる
- b. B検体の開封および分析のためにアスリート本人もしくは代理人が同席できる
- c. 分析関連書類一式を請求できる
- d. 上記すべて

答え: d. 上記すべて

解説: 世界ドーピング防止規程では、陽性の疑いのある分析結果が出た場合においても、アスリートの権利が尊重され護られます。

44. 質問: アスリートが居場所情報をアンチ・ドーピング機関に提出することは、スポーツの公平性を保つためにも非常に重要なことです。

では、誰が居場所情報にアクセスできますか?

- a. アスリートの情報は公開されるため、一般の人やメディアも含め興味のある人は誰でも
- b. 一般の人やメディアはアクセス不可能だが、アンチ・ドーピング機関で働いている人なら誰でも
- c. 居場所情報は常に厳格な極秘情報として扱われ、アンチ・ドーピング機関の限定された担当者のみアクセスできる
- d. 上記のいずれでもない

答え: c

解説: すべての居場所情報は、極秘情報としてドーピング検査のためだけに厳格に使用されます。関連のなくなった情報はすべて破棄されます。

45. 質問: どのくらいの頻度で禁止物質表は改訂されますか?

- a. 毎月
- b. 毎年
- c. オリンピック・パラリンピック大会の前
- d. 改訂されない

答え: b. 毎年

解説: 禁止物質リストは、国際的な専門家で構成される禁止表委員会によって協議され、毎年1月1日に最新版が発効されます。すべてのアスリートは最新の情報を知っておく必要があります。最新の禁止表はWADAのホームページで手に入れることができます。 www.wada-ama.org

